平成24年度 日韓文化交流基金 事業実績

一般会計

1. 自主事業

（1）第28回日韓文化交流基金韓国訪問団

（日程）

平成24年 9月13日（木）	ソウル到着 武藤正敏駐韓国大使表敬訪問 安豪榮（アン・ホヨン）外交通商部第1次官表敬 李洪九韓日文化交流基金会長主催歓迎晩餐会
9月14日（金）	ソウルジャパンクラブ役員との朝食懇談会 清渓川文化館見学 訪日フェローシップ経験者・訪韓フェローとの昼食懇談会 郭濼鎭（クァク・ヨンジン）文化体育観光部第1次官表敬 鮫島団長主催レセプション／第13回「日韓文化交流基金賞」授賞式
9月15日（土）	水原華城見学 帰国

（参加者：役職は参加当時のもの）

団長	鮫島章男	（公財）日韓文化交流基金会長、太平洋セメント（株）名誉顧問
副団長	内田富夫	（公財）日韓文化交流基金理事長
顧問	戸塚進也	（公財）日韓文化交流基金理事、前掛川市長、元衆議院議員
顧問	竹内　宏	（公財）日韓文化交流基金評議員、静岡県立大学ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ地域ｾﾝﾀｰｾﾝﾀｰ長
顧問	小山敬次郎	（公財）日韓文化交流基金監事、東京経済大学理事
団員	楢﨑正博	（公財）日韓文化交流基金理事、元関電産業（株）相談役
団員	大竹洋子	（公財）日韓文化交流基金評議員、東京国際女性映画祭ディレクター
団員	阿部孝哉	（公財）日韓文化交流基金業務執行理事・事務局長

（2）第13回日韓文化交流基金賞

文化及び芸術分野の交流を通じて日韓間の友好親善に寄与した韓国人を表彰するもの。24年度の受賞者は下記の3名。

鄭求宗（チョン・グジョン） 東西大学校碩座教授・日本研究センター所長

東亜日報東京特派員としての日本駐在以来、長きにわたって日韓両国関係の発展に貢献。日韓・韓日文化交流会議には第1期から参加し、第3期では韓国側委員長を務めた。

金青子（キム・チョンジャ） 蔚山広域市文化観光解説士会副会長

文化観光ガイドとして日韓の地方自治体間交流に長年活躍しており、特に蔚山、釜山地域に残る文禄・慶長の役の遺構「倭城」の文化財指定や国内外への紹介に尽力。日韓の地方間の草の根交流に貢献している。

崔光準（チェ・クァンジュン） 新羅大学校外国語学部日語日文学科教授

万葉集についての研究と韓国内での紹介をはじめ、日本の専門機関と連携しての日本の伝統文化、大衆文化の紹介、社会福祉分野での学生交流等、多彩な分野で日韓交流を実践し、韓国内での日本理解増進に寄与している。

授与式　平成24年9月14日（金）　於：ソウルロッテホテル

2. 賛助会員制度

（1）加入の状況（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

種別（年会費）	人数/法人数	口数	金額
特別会員（1口　5万円）	1名	1口	50,000円
個人会員（1口　1万円）	73名	91口	910,000円
法人会員（1口　10万円）	0社	0口	0円
計	74名	―	960,000円

特別会員（五十音順）

楢﨑正博

個人会員（五十音順、括弧内は2口以上の口数）

秋鹿敏雄	饗庭孝典	青野正明	秋月望	朝倉敏夫
浅野豊美	阿部孝哉(3)	李仁子	李炯喆	石川武敏
磯崎典世	林在圭	内田富夫(2)	梅田博之	小野正昭(3)
大竹洋子	小倉紀蔵	越智通雄	梶谷崇	金丸守男
菅野修一	岸真清	木畑洋一	金春美(3)	木村光一
熊野清貴	黒柳慶子	小泉勇治郎	石丸重尚	小針進
齋木崇人	坂井俊樹	櫻井浩	鮫島章男(3)	柴公也
徐正基	上保敏	白川豊	須川英徳	芹川哲世(4)
千玄室	田中正敬	月脚達彦	都恩珍	中江新(5)
中川聡	中塚明	中野照男	中山隆夫	中山武憲
中山めぐみ	波田野節子	浜之上幸	林和彦	林史樹
平田辰一郎	福原裕二	藤本幸夫	藤原祥二	堀泰三
洪宗郁	前田二生	松井貞夫(2)	三谷太一郎	三ツ井崇
實生泰介	茂木敏夫	尹景徹	尹明憲	余田幸夫
柳震太	和田とも美(2)	渡辺浩		

（2）会費収入の使途

（ｉ）助成

当基金人物交流助成のうち、下記の芸術分野の2事業に対する助成金（733,000円）の一部として活用した。

実施期間	事業名、申請団体	開催地
H24/4/1 ～H25/2/28	韓舞「望恨歌」上演活動と能楽「望恨歌」の公演に向けての相互理解活動（体験型ワークショップと講演） 日韓舞台芸術友の会 絆 イニョン	愛知県立芸術劇場小ホール 名古屋市女性会館 名古屋市演劇練習館 名古屋市短歌会館和室
H24/5/28 ～H24/6/5	日韓伝統文化総合紹介交流イベント 作品展示・ワークショップ・邦楽・舞踊公演 一般社団法人文化遺産調査研究保存継承機構 ゆらび	韓国釜山広域市・慶星大学校

（ⅱ）講演会

日韓の文化交流に関する専門家による講演会を、当基金会議室で開催した。

・平成24年6月15日（金） 参加者：32名

「韓流小説を読む」川村湊　法政大学国際文化学部教授

・平成24年12月14日（金） 参加者：22名

「韓（から）くにを旅して43年－その軌跡」藤本巧　写真家

3. 外務省からの受託事業

【日韓歴史家会議】

行事名	開催日	会 場
講演会「歴史家の誕生」	10月26日	東京 「ホテルアジア会館」
第12回会議 「世界史における中国」 参加者：日本側 21名 韓国側 11名	10月26日～ 10月28日	東京 「ホテルアジア会館」

第1特別会計

1．日韓学術文化･知的交流事業

（1）助成事業

（ｉ）草の根交流　　合計33件（当初34件承認／1件中止）

No.	事業名	申請団体	実施期間
1	朝鮮通信使 21 世紀対馬プロジェクト＜対馬アートファンタジア＞関連企画 FANtASIA プロジェクト	ギンザ柳々舎	4 月 1 日 ～ 3 月 31 日
2	韓日･漢拏山･富士山･青少年環境交流提言事業	特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島	9 月 3 日～7 日 9 月 13 日～16 日
3	2012 日韓子供湿地文化交流	慶南環境教育文化センター	5 月 3 日 ～ 5 月 6 日
4	日韓海ゴミ ZERO フォーラム in 秋田	Akita Beach Clean プロジェクト	6 月 28 日 ～ 7 月 2 日
5	きれいな海を守るための日韓青少年の奉仕活動	韓日社会文化フォーラム	7 月 24 日 ～ 7 月 31 日
6	平成 24 年度 青森市少年海外生活体験事業	青森市教育委員会	7 月 27 日～31 日 8 月 1 日～5 日
7	名護屋小学校 萬徳初等学校ホームステイ交流事業	名護屋小学校 PTA	7 月 25 日～27 日 8 月 22 日～24 日
8	とやま世界こども舞台芸術祭 2012	とやま世界こども舞台芸術祭実行委員会	7 月 31 日 ～ 8 月 6 日
9	「韓国の友だち、アンニョンハセヨ！」―小学生ホームステイ交流 2012―	特定非営利活動法人 多言語広場 CELULAS（セルラス）	7 月 30 日 ～ 8 月 6 日
10	2012 韓日青少年写真文化交流	社団法人 明るい青少年	8 月 1 日～ 5 日 8 月 9 日～13 日
11	日韓青少年交流“百花繚乱 里山青少年アートフェスティバル”	NPO 法人 日中韓から世界へ	7月 28 日 ～ 8 月 10 日
12	第 27 回日韓学生会議 東京夏季交流大会	日韓学生会議	8 月 5 日 ～ 8 月 18 日

13	韓国 清州大学校との学生交流プログラム	鳥取環境大学	8 月 7 日～10 日 8 月 21 日～24 日
14	栃木県 U-14 中体連選抜韓国遠征 2012 及び栃木県 U-14 クラブ選抜韓国遠征 2012	社団法人 栃木県サッカー協会	8 月 6 日～11 日 8 月 20 日～25 日
15	International Urban and Design Workshop 2012	国立大学法人 千葉大学	8 月 20 日～24 日
16	日韓国際ユース・ピースキャンプ	公益財団法人 神戸 YWCA	8 月 6 日～ 12 日
17	東アジア エネルギー国際ワークショップ 2012	特定非営利活動法人 東アジア環境情報発伝所	8 月 5 日～ 7 日
18	第 28 回日韓学生フォーラム	日韓学生フォーラム	8 月 10 日 ～ 8 月 23 日
19	日韓獣医学生交流プログラム	日韓獣医学生協会	8 月 14 日～19 日 8 月 21 日～25 日
20	日韓高校生交流事業「アジアの隣人：映像の協働制作」	特定非営利活動法人 グローバルプロジェクト推進機構 JEARN	9 月 1 日 ～ 3 月 31 日
21	韓国スタディツアーおよび韓国大学生との国際交流会（漢陽大学・世明大学大学生との国際交流会）	立命館大学産業社会学部 韓国社会文化研究会	9 月 10 日 ～ 9 月 18 日
22	衣・食・住 ソウル―広島（Food,Clothing and Shelter-Hiroshima meets Seoul）	ソウル・広島文化芸術交流展実行委員会	8 月 28 日 ～ 9 月 10 日
23	「日韓こどもの絵国際交流」～絵画の共同制作等を通した日韓児童の交流～	NPO 法人 国際教育情報交流協会	9 月 16 日～ 9 月 18 日
24	躍動よさこいワークショップ in ソウル 2012	NPO 法人 躍動塾	10 月 1 日～ 4 日
25	第 9 回ゴールドコンサート －障がい者の音楽コンサート－	特定非営利活動法人 日本バリアフリー協会	9 月 22 日
26	「日韓交流おまつり 2012 in Seoul」美濃みこし派遣事業	美濃市みこし連	9 月 28 日 ～ 10 月 1 日
27	2012 年 CIOFF World Folkloriada Anseongin in KOREA	銚子正調大漁節保存ひびき連合会	9 月 29 日 ～ 10 月 6 日
28	韓・日青少年社会福祉受恵者の国際交流活動	小さな愛を分かち合う会	10 月 10 日 ～ 10 月 14 日

29	第 6 回アジア大学合同合唱コンサート	東京大学音楽部合唱団コールアカデミー	10 月 12 日 ～10 月 15 日
30	琉韓伝統舞踊ワークショップと現代舞踊の共創	明治大学身体コミュニケーション研究所	12 月 7 日～10 日 3 月 11 日～22 日
31	高校生文化交流	山陽女子高等学校	3 月 3 日 ～3 月 6 日
32	海友会那賀ブロック主催　和歌山韓国青年交流事業（招へい）	海友会那賀ブロック	2 月 20 日 ～2 月 24 日
33	韓国現代戯曲ドラマリーディング Vol.6 及びシンポジウム	日韓演劇交流センター	2 月 20 日 ～2 月 24 日

（ⅱ）シンポジウム・国際会議　　合計　4件

No.	事業名	申請団体	実施期間
1	北東アジア学生ラウンドテーブル 2012 Summer Program	北東アジア学生ラウンドテーブル	8 月 6 日 ～8 月 12 日
2	日韓ユース・カンファレンス	財団法人 日本 YWCA	8 月 24 日～27 日
3	韓国―日本国際シンポジウム：国交正常化以後における日中・韓中関係と東アジア秩序	韓国政治学会	10 月 4 日 ～10 月 6 日
4	日韓海峡圏におけるトランスナショナル・ネットワークの現状と未来	九州大学 韓国研究センター	12 月 8 日

（ⅲ）芸術交流　　合計　7件

1	日本民謡梅若会 日韓交流京畿道記念公演	日本民謡 梅若会	5 月 23 日 ～5 月 25 日
2	日韓協同エクスチェンジ・プログラム	北九州お手軽劇場アイアンシアター運営実行委員会	8 月 25 日 ～9 月 30 日
3	日韓人形劇合同公演「日韓民話の共演 さるじぞう＆小豆粥ばあさんと虎」	人形劇場だぶだぶ	8 月 6 日 ～8 月 17 日
4	日韓交流展「Historical Parade」	日韓交流展「Historical Parade」実行委員会	9 月 7 日 ～2 月 3 日
5	福岡インディペンデント映画祭 2012	福岡インディペンデント映画祭実行委員会	9 月 6 日 ～9 月 11 日

6	日韓アートリレー2012 ソウル公演	die pratze	9 月 14 日～30 日
7	東京デスロック+第 12 言語演劇演劇スタジオ合同公演『3 人いる！』	東京デスロック	10 月 11 日 ～10 月 22 日

（ⅳ）学術定期刊行物助成　　合計　2件

No.	書名	発行機関	出版社
1	韓国朝鮮の文化と社会　第11号	韓国･朝鮮文化研究会 代表　野村　伸一（慶應義塾大学教授）	風響社
2	現代韓国朝鮮研究　第12号	現代韓国朝鮮学会 会長　深川由起子（早稲田大学教授）	中西印刷 株式会社

（2）学術研究者交流

（ｉ）招聘　　合計　26名（前年度からの継続者6名）

No	氏　名	期　間	受入機関	研究テーマ
1	黄善美	平成23年8月1日～ 平成24年6月30日	横浜国立大学留学生センター	翻訳戦略の自国化と異国化―中国戯曲「一只馬蜂」の韓日翻訳の比較分析
2	朴暎美	平成23年9月1日～ 平成24年7月31日	二松学舎大学	近代における日・朝学者の交流と影響
3	李炳萬	平成23年9月1日～ 平成24年7月31日	國學院大学栃木短期大学	日本語の敬語の史的研究－幕末・明治の人情本を中心に－
4	李和真	平成23年9月1日～ 平成24年7月31日	京都大学大学院文学研究科	戦時期植民地朝鮮における映画をめぐる言語的再編と「朝鮮語/映画」の場
5	崔賢熙	平成23年9月1日～ 平成24年7月31日	東京外国語大学大学院総合国際学研究院	「近代の超克」議論の起源―日中戦争期の三木清の文化論―
6	趙丁垣	平成23年10月1日～ 平成24年8月31日	慶應義塾大学法学部	日本の人間の安全保障外交の構想についての研究：政府、学会、NGO・市民社会による人間の安全保障の拡張努力を中心に
7	鄭龍河	平成24年4月1日～ 平成24年6月30日	九州大学法学部	日韓自治体のガバナンス類型の比較研究―釜山市と福岡市の国際交流・協力と関連して―

8	張景俊	平成24年4月1日～ 平成24年8月5日	京都大学人文科学研究所	高麗時代釈読口訣と日本訓点資料の比較研究試論―諸符号の使用様相を中心に―
9	朴淳希	平成24年4月1日～ 平成25年2月28日	京都学園大学人間文化学部	日韓茶文化比較研究
10	石橋	平成24年4月1日～ 平成25年2月28日	立命館大学衣笠総合研究機構	現代日本社会の変容と「ジェンダー・バックラッシュ」についての考察
11	鄭然式	平成24年4月1日～ 平成25年2月28日	京都大学東南アジア研究所	ベトナムの東遊運動（日本留学熱）の際に日本に来たベトナム学生に関して〔1905-1909〕
12	金憲奭	平成24年4月1日～ 平成25年2月28日	国立歴史民俗博物館	人間と家畜の食性からみる日韓の比較研究
13	李大和	平成24年4月1日～ 平成25年2月28日	京都大学人文科学研究所	戦時下朝鮮の防空体制と朝鮮社会の変容
14	鄭東俊	平成24年4月1日～ 平成25年2月28日	早稲田大学大学院文学研究科	古代東アジアにおける律令の伝播と変容-朝鮮三国の法制度が古代日本の律令の制定に与えた影響を中心に-
15	鄭淳一	平成24年4月1日～ 平成25年2月28日	早稲田大学大学院文学研究科	9 世紀前後日本における新羅人ディアスポラの復元的研究
16	黄昞起	平成24年4月1日～ 平成24年10月15日	立命館大学文学部	茶山学と日本古学派、国学派の研究―経学思想と書誌学の研究を通じた東アジア的な観点の形成を中心に―
17	金男恩	平成24年4月4日～ 平成25年3月3日	立命館大学衣笠総合研究機構	戦後日本のアジア主義―保守勢力のアジア認識を中心に―
18	車恩妊	平成24年4月15日～ 平成25年3月15日	一橋大学大学院社会学研究科	植民地期在朝日本人の生活世界
19	安珉花	平成24年4月21日～ 平成24年7月18日	明治学院大学院文学研究科	アメリカの占領期とその後における日韓社会のアメリカニズムの過程の比較―日韓映画の政策と美学的比較を中心に
20	崔子明	平成24年8月1日～ 平成25年6月30日	東京大学大学院文学部人文社会研究科	東京帝国大学と近代日本中間階級社会の形成

21	金尚泰	平成24年12月1日～ 平成25年7月31日	東京大学大学院人文社会系研究科	旧石器時代の石器と石材の関連性及び石器文化の日韓交流様相
22	朴秀哲	平成24年9月1日～ 平成25年7月31日	東京大学史料編纂所	豊臣秀吉の神格化過程－‘武威’と‘功名’を中心に－
23	李蕣伊	平成24年9月10日～ 平成25年7月31日	東京大学大学院総合文化研究科	20 世紀初頭の東アジアにおける倫理的社会主義の形成に関する超国家的研究
24	金昶旭	平成24年10月1日～ 平成25年8月31日	東京大学大学院情報学環学際情報学府	韓日における創造都市政策に関する比較研究―ソウルと横浜を事例に
25	朴正義	平成24年12月1日～ 平成25年2月28日	東京大学大学院総合文化研究科	ニューカマーの国家帰属意識―ニューコリア・タウン大久保を中心に
26	鄭有景	平成24年12月1日～ 平成25年2月28日	鹿児島大学大学院人文社会科学研究科	地域の歴史景観の保存をめぐる市民の活動と役割

（ii）派遣　　合計　4名（前年度からの継続者1名）

No.	氏名	期間	受入機関	研究テーマ
1	波潟　剛	平成23年10月1日～ 平成24年8月31日	ソウル大学校日本研究所	1930年代の東アジア地域間における文化の交渉と翻訳―モダン都市東京・ソウルと文芸―
2	小宮秀陵	平成24年4月1日～ 平成25年2月28日	ソウル大学校人文大学国史学科	9-10世紀東アジアにおける対唐外交の変容と地域社会の形成―『桂苑筆耕集』と金石資料を端緒にして―
3	新城道彦	平成24年8月21日～ 平成24年9月19日	ソウル大学校奎章閣国際韓国学センター	韓国併合と帝国法制の変容―王公家軌範・華族令・朝鮮貴族令―
4	鈴木多聞	平成24年11月30日～ 平成25年3月31日	高麗大学校文科大学	朝鮮半島における「本土決戦」準備と戦時動員1943-1945

＊論文集の刊行：平成18年4月～平成24年９月までの訪日・訪韓研究者の論文を「訪日学術研究者論文集　第19巻」「訪韓学術研究者論文集　第13巻」として刊行し、国内及び韓国内の主要図書館及び専門図書館、研究機関等（38ヵ所）に配布した。

（3）第3期日韓文化交流会議

（ｉ）活動概況

両国の文化・芸術・学術界有識者による協議体であり、平成22年度より4回の全体会合と2回のシンポジウムを開催。平成24年5月の「第4回全体会議」において「創造的日韓・韓日関係を目指して―第3期日韓・韓日文化交流会議の提言―」を発表して活動を終了。同提言は、会議後に両国政府に提出された。

会議名	日時	場所
第4回全体会議	平成24年5月16、17日	ソウル・ロッテホテル

（ⅱ）両国メンバー名簿（肩書は「第4回全体会議」開催時（平成24年5月現在）のもの）

	日本		韓国	
委員長	川 口 清 史	学校法人立命館総長	鄭 求 宗	東西大学校日本研究センター所長
委員	有 川 節 夫	九州大学総長	鞠 守 鎬	ディディム舞踊団団長
	*市 川 森 一	作家、脚本家	金 亨 駿	CJ E&M 映画事業部門企画担当顧問
	小 倉 紀 蔵	京都大学教授	南 宮 演	音楽家、Studio Fat 代表
	川 淵 三 郎	日本ｻｯｶｰ協会最高顧問	朴 晟 源	韓国藝術綜合学校副教授
	木 村 典 子	日韓舞台芸術ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ	朴 銓 烈	中央大学校教授
	倉 本 裕 基	作曲家、ピアニスト	孫 正 禹	韓国演劇演出家協会会長
	小 針 進	静岡県立大学教授	鄭 起 泳	NEOWIZ GAMES 副社長
	辻 原 登	作家、東海大学教授	鄭 梨 賢	小説家
	寺 脇 研	京都造形芸術大学教授	崔 鍾 日	韓国ｱﾆﾒｰｼｮﾝ制作者協会会長
	山 村 浩 二	東京藝術大学教授	崔 泰 枝	国立バレエ団団長
事務局長	内 田 富 夫	日韓文化交流基金理事長	李 康 民	漢陽大学校教授

＊市川森一委員は平成23年12月10日に逝去。

（4）第3期日韓歴史共同研究委員会は、平成24年度においては両政府間で立ち上げに至らず、開催されなかった。

（5）第2期日韓新時代共同研究プロジェクト

（ⅰ）活動概況

平成23年10月19日の日韓首脳会談での合意を受け、同年12月12日に発足。「国際社会に共に貢献する日韓関係」を念頭に、国際政治、経済分野を含む多様な分野の日韓両国の専門家各々16名が第1期共同研究に引き続き、今後の協力のあり方について研究を行うプロジェクト。平成24年度は日韓で各1回会合を行い、両国政府への提言書を作成した（提出時期は平成25年度中で調整中）。

会議名	日時	場所
全体会合（東京会合）	平成24年 6月29日～30日	東京・ホテルニューオータニ
全体会合（ソウル総会）	平成25年 2月16日	ソウル・ベストウェスタンホテル国都

＊研究テーマ

（1）文化・知識・メディア交流促進

（2）人的ネットワークの形成

（3）東アジア複合安保秩序構築

（4）原子力安全およびエネルギー協力

（5）環境パートナーシップ

（6）東アジア共生経済秩序構築

（7）複合共生技術協力

（ⅱ）両国委員名簿(肩書きは平成25年2月現在)　（★は幹事）

区分	日本		韓国	
	氏名	所属	氏名	所属
委員長	小此木政夫	九州大学特任教授 慶應義塾大学名誉教授	河　英　善	東アジア研究院理事長 ソウル大学校名誉教授
委員	小川　英治	一橋大学教授	金　基　石	江原大学校教授
	木村　福成	慶應義塾大学教授	金　良　姫	大邱大学校教授
	國分　良成	防衛大学校長	金　雄　熙	仁荷大学校教授
	小針　　進	静岡県立大学教授	金　浩　燮	中央大学校教授
	児矢野　マリ	北海道大学教授	文　興　鎬	漢陽大学校教授
	澤田　康幸	東京大学教授	朴　榮　濬	国防大学校教授
	添谷　芳秀	慶應義塾大学教授	朴　喆　熙	ソウル大学校教授
	田所　昌幸	慶應義塾大学教授	孫　　洌	延世大学校教授
	中西　　寛	京都大学教授	尹　徳　敏	国立外交院教授
	長岡　貞男	一橋大学教授	李　淑　鍾	成均館大学校教授
	西野　純也★	慶應義塾大学准教授	李　元　徳★	国民大学校教授
委員	平岩　俊司	関西学院大学教授	張　濟　國	東西大学校総長
	深川由起子	早稲田大学教授	全　在　晟	ソウル大学校教授
	村田　晃嗣	同志社大学教授	全　鎭　浩	光云大学校副教授
	薬師寺泰蔵	（公財）世界平和研究所 理事・研究顧問	洪　鍾　豪	ソウル大学校教授

（6）広報事業

（ｉ）広報誌

日韓文化交流基金NEWS　62～65号刊行

（ii）ウェブサイト

基金のウェブサイトを継続・運営し事業の広報・情報提供を行っている。合わせて「日韓文化交流カレンダー」を掲載し日本で開催される韓国・日韓文化交流関連のイベントの紹介を行っている。

年月		ユーザー数*2	訪問数*3	訪問別ページビュー*4	新規訪問の割合
平成24年	4月*1	281	384	3.41	73.18
	5月	2,287	4,402	4.06	49.26
	6月	2,133	4,078	4.48	42.94
	7月	2,019	3,875	4.02	41.16
	8月	2,662	4,451	3.95	50.64
	9月	2,418	4,108	3.90	47.96
	10月	2,995	1,950	3.94	49.39
	11月	2,242	4,039	3.87	41.99
	12月	1,957	3,614	3.78	39.87
平成25年	1月	2,311	4,065	4.32	45.07
	2月	1,598	2,746	3.59	42.57
	3月	1,927	3,281	4.11	45.20

*1　ウェブサイトにおけるユーザー分析機能をリニューアルした後の記録のみ（4月25日より開始）。
*2　ユーザー数：該当ウェブサイトを使用した人数
*3　訪問数：ユーザーがサイトを訪問した回数。
*4　ページビュー：訪問者のブラウザにHTML文書（ウェブページ）が表示された回数。

（iii）メールマガジン

基金事業の最新情報、「日韓文化交流カレンダー」のイベント紹介などを、ウェブ上等から登録した希望者と、賛助会員を対象に、月2回ほどのペースで配信している。登録者数は1275名（平成25年3月22日現在）

配信数

第151号（平成24年4月2日）	1222	第153号（平成24年4月27日）	1219
第152号（平成24年4月13日）	1222	第154号（平成24年5月11日）	1223

第155号（平成24年5月25日）	1223	第165号（平成24年10月19日）	1240
第156号（平成24年6月8日）	1225	第166号（平成24年11月5日）	1244
第157号（平成24年6月22日）	1229	第167号（平成24年11月16日）	1245
第158号（平成24年7月9日）	1234	第168号（平成24年12月4日）	1255
第159号（平成24年7月20日）	1233	第169号（平成24年12月14日）	1257
第160号（平成24年8月15日）	1232	第170号（平成25年1月18日）	1262
第161号（平成24年8月21日）	1232	第171号（平成25年2月7日）	1264
第162号（平成24年9月7日）	1235	第172号（平成25年2月22日）	1269
第163号（平成24年10月1日）	1238	第173号（平成25年3月8日）	1267
第164号（平成24年10月11日）	1239	第174号（平成25年3月22日）	1275

第2特別会計

第2特別会計の下で東アジア青少年交流基金により実施してきた「JENESYS」（「東アジア青少年大交流計画」）事業は、平成23年度をもって終了した（但し、一部長期招聘事業は平成25年2月に終了）。

第2特別会計については、新規の事業計画はないが、引き続き未収金の返還等の会計処理があるため、同基金の経理勘定として存続。

第3特別会計

平成24年度の日韓青少年交流事は、東日本大震災からの復興に資するため、日本再生に対する外国の理解増進を目的に「アジア大洋州地域及び北米地域との青少年交流」(「キズナ強化プロジェクト」)の下で実施した。

1. 青少年交流事業

(1)大学生・教員等交流

(ⅰ)派遣　　合計　5団体101名(団長・引率を含む)

No.	団 体 名	人 数	期 間
1	日本教員訪韓研修団(1)	15	平成24年6月26日～7月5日
2	日本大学生訪韓研修団(外交通商部招聘)	29	10月2日～11日
3	日本教員訪韓研修団(2)	17	11月13日～22日
4	日本大学生訪韓研修団(1)	20	平成25年3月5日～14日
5	日本大学生訪韓研修団(2)	20	3月19日～28日

(ⅱ)招聘　　合計　14団体383名(団長・引率を含む)

No.	団 体 名	人 数	期 間
1	韓国教員訪日研修団(1)	20	平成24年10月8日～17日
2	韓国教員訪日研修団(2)	20	10月8日～17日
3	韓国教員訪日研修団(3)	20	11月26日～12月5日
4	韓国教員訪日研修団(4)	20	11月26日～12月5日
5	韓国大学生訪日研修団(1)	29	平成24年7月16日～7月25日
6	韓国大学生訪日研修団(2)	30	7月16日～7月25日
7	韓国大学生訪日研修団(3)	26	10月29日～11月7日
8	韓国大学生訪日研修団(4)	27	10月29日～11月7日
9	韓国青年訪日研修団(1)	30	7月30日～8月8日
10	韓国青年訪日研修団(2)	28	7月30日～8月8日
11	韓国大学生訪日研修団(外交通商部派遣)	30	9月8日～9月21日
12	韓国青年訪日研修団(3)	36	平成25年1月14日～24日
13	韓国青年訪日研修団(4)	36	1月14日～24日
14	韓国青年訪日研修団(5)	31	1月14日～24日

（2）中高生交流

（ｉ）派遣　　合計　4団体205名（団長･引率を含む）

団　体　名	団体数	人　数	期　間
中学生（宮城県）	1	52	平成24年9月9日～15日
中学生 （福島県いわき市）	1	49	9月24日～30日
高校生（宮城県）	1	50	10月21日～27日
高校生（岩手県）	1	54	11月18日～24日

（ⅱ）招聘　　合計　8団体395名（団長･引率を含む）

団　体　名	団体数	人　数	期　間
中学生	4	197	平成24年9月6日～12日 9月20日～26日
高校生	4	198	10月23日～29日 11月6日～12日

（3）その他

（ｉ）日韓交流ユースカップ2012（2002FIFAワールドカップ日韓共催10周年記念事業）

（ア）高校生対象事業

東日本大震災の被災地の高校生が、韓国の高校生と6つの日韓混成チーム（1チーム当たり日韓双方15名程度）を結成し、相手国を訪問しながらサッカーを通じた交流を実施。震災からの復興に関する情報発信や被災地視察を行い、日本再生に関する理解を深めた。招聘事業では、茨城県つくば市に全チームが集合し、日韓混成チーム同士で、被災地見学や交流の成果に関するプレゼンテーション･コンテストとサッカー大会を開催し、順位を競い合った。総合優勝は、茨城県立竹園高校･仁川大建高校チームに決定。

参加チーム	派遣事業		招聘事業	
	期間	人数	期間	人数
東北学院高等学校･錦湖高等学校	7月26日～30日	14	8月3日～9日	20
福島県立湯本高等学校･仁川南高等学校	7月25日～30日	15	8月2日～9日	19
茨城県立竹園高等学校･仁川大建高等学校	7月25日～31日	15	8月3日～9日	19
茨城県立波崎高等学校･漢陽工業高等学校	7月26日～31日	15	8月3日～9日	15
千葉明徳高等学校A･慶熙高等学校	7月26日～31日	15	8月3日～9日	20
千葉明徳高等学校B･在鉉高等学校	7月26日～31日	15	8月3日～9日	20
	計	89	計	113

（イ）U－10対象事業

2002年FIFAワールドカップ日韓共催の年に生まれた、被災地出身の日本の子ども達で結成した2チーム（宮城県チーム、茨城県チーム）を韓国に派遣し、韓国の子ども達に対し、東日本大震災からの復興状況等の発表を行うとともに親善試合を実施した。

参加チーム	派遣事業	
	期間	人数
宮城県チーム	6月15日～17日	15
茨城県チーム	6月15日～17日	14
	計	29

（ⅱ）日韓交流おまつり　関連事業

「日韓交流おまつり2012 in SEOUL」に出演する団体を対象とし、出演に関わる費用の支援及びPRブースの出展支援を行った（計4件）。

事業名	参加団体(実施主体)	人数	期間
出演団体支援 （佞武多）	八戸大学・八戸短期大学 （青森県）	10	10 月 2 日～10 月 5 日
出演団体支援 （和太鼓）	岩手県立宮古水産高等学校（岩手県）	11	10 月 1 日～10 月 4 日
出演団体支援 （和太鼓）	福島県立塙工業高校 （福島県）	14	10 月 1 日～10 月 4 日
出演団体支援	「ミス日本」ミスきもの派遣	2	10月2日～10月4日

（iii）日韓青少年共同ボランティア活動事業（招聘・派遣プログラム）

日韓両国の大学生・大学院生を中心とした交流事業。地域おこしをテーマとし、招聘・派遣プログラムで日韓団員共同でのボランティア活動やディスカッションを行った。招聘プログラムでは東日本大震災の被災地を視察し、岩手県陸前高田市で側溝の泥出し、がれきの回収・分別等のボランティア活動を、派遣プログラムでは全羅北道鎮安郡で散歩道整備や、長く途絶えていた地域の祭り実現に関わるボランティア活動を行ったほか、日本団員が東日本大震災からの復興状況に関する情報発信を行った。実施協力団体はNPO法人国際ボランティア学生協会、社団法人韓国青少年聯合。

招　聘	平成25年2月11日～17日	韓国側団員	30名（団長、引率、団員28名）
派　遣	平成25年2月21日～27日	日本側団員	26名（団長、引率、団員24名）

（vi）青少年映画交流（アジア国際子ども映画祭参加訪日団）

「アジア国際子ども映画祭INあわじ」に参加するため、韓国を含むアジアの11の国と地域から派遣された中高生が自ら制作した映像作品を携え訪日。訪日期間中は映画祭参加に加え、被災地（千葉県旭市・浦安市）訪問、兵庫県内での高校訪問などを行った。

実施期間	平成24年11月20日～11月25日
招聘人数	9名（中学生2名、高校生6名、引率1名）
出展作品数	3作品（受賞作品なし）

（vii）日中韓青少年交流事業

日中韓青少年交流プログラムによる日本大学生の訪韓。

実施期間	平成24年7月25日～31日
招聘人数	100名（青年90名、引率10名）

2. 青少年交流委託事業

(1)日韓ボーイスカウト・ガールスカウト交流事業

(公益財団法人ボーイスカウト日本連盟、社団法人ガールスカウト日本連盟への委託事業)

韓国ボーイスカウト100名(スカウト87名、指導者13名)を1月10日～23日の13泊14日の日程で招聘。期間中の1月15日～18日には、岩手県内の東日本大震災被災地視察、現地高校生との交流等を実施した。なお、韓国ガールスカウトは、50名(スカウト46名、指導者4名)を1月10日～23日の日程で招聘する準備を進めていたが、12月7日に東北地方で発生した地震の影響により、訪日を中止。

(2)在サハリン「韓国人」留学生受入事業

(国立大学法人九州大学への委託事業)

サハリン国立大学の「韓国人」学生の日本留学を支援する制度で、2012年4月からの約1年間、2名の学生が九州大学に留学。期間中、計3回にわたり東日本大震災被災地を訪問し、被災地の現状を学ぶと共に、他の国からの留学生と共に側溝の泥出、清掃等のボランティア活動を行った。

(3)高校生長期招へい事業

(公益財団法人AFS日本協会への委託事業)

韓国の高校生13名を、8月下旬～2月下旬の6カ月間招聘。期間中、生徒たちは全国各地の一般家庭にホームステイしつつ、現地の高校に通学。

韓国内所属学校	学年	性別	地域	受入学校	受入地域
全州ヘソン高等学校	2	男	全羅北道	宮崎県立宮崎大宮高等学校	宮崎市
全北外国語高等学校	1	女	全羅北道	出水中央高等学校	鹿児島市
安山江西高等学校	1	男	京畿道	開星高等学校	松江市
河東高等学校	1	男	慶尚南道	神奈川県立伊志田高等学校	伊勢原市
海南高等学校	3	女	全羅南道	奈良女子大学附属中等教育学校	奈良市
ソンリンｲﾝﾀｰﾈｯﾄ高等学校	2	女	ソウル市	北海道旭川凌雲高等学校	旭川市
ホンチョン高等学校	2	女	江原道	大阪府立芥川高等学校	高槻市
天安第一高等学校	2	男	忠清南道	新潟県立新潟高等学校	新潟市
ミチュホル外国語高等学校	2	男	仁川市	岡崎城西高等学校	岡崎市
翰林工業高等学校	2	男	済州道	山村国際高等学校	新座市
聖心女子高等学校	1	女	ソウル市	横浜創学館高等学校	横浜市
慶熙女子高等学校	2	女	ソウル市	大阪府立箕面高等学校	箕面市
全州紀全女子高等学校	2	女	全羅北道	愛知県立一宮商業高等学校	一宮市

第4特別会計

平成24年度補正予算事業として始まったJENESYS 2.0 プロジェクトは、アジア大洋州諸国との間で実施する3万人規模の青少年交流事業で、日本経済の再生に向けて、我が国に対する外国の関心を呼び起こし、訪日外国人の増加を図るとともに、クール・ジャパンを含めたわが国の魅力等に対する国際理解を増進するための事業。韓国との交流規模は拠出額14億6,797万円、招聘・派遣は合計約4,400名。

同事業の第1団として、在韓国の日本大使館、総領事館が選抜した韓国大学生訪日団32名が3月28日～10日間の日程で来日した。